

雄家伝来のものを強調し、薬法その他を全く収載しない医学書なのである。これに類するものに「吉原杏蔭齋正骨要訣」を「吉雄流正骨法」としたり、「済春園正骨術要訣」竹中思順著」としたりすると全く同じ剽竊本であり、原著に無断で自己固有の著書の如く門弟に伝授していたようである。

「整骨範草稿」の著者吉雄幸載（一七八七—一八六六）は名を種通、通称幸沢、号は素友、幼名は諸熊五郎兵衛と称した。父は吉雄種徳で、耕牛の甥である。天明八年（一七八七）長崎で生まれ、文化十四年（一八一七）六月長崎施薬院外科に任ぜられ、シーボルトの門下生にもなった人物である。この人にしてこのような形式の著述が行なわれていたとは驚かされる。

慶応二年（一八六六）二月十三日七十九歳で長崎で没している。

（県立ガンセンター新潟病院）

日本における新生児沐浴の変遷

蔵方 宏昌

初湯の時期

『千金方』を引用している『医心方』と『万安方』は臍帯を切断する前に沐浴させることを取り入れている。しかし平安時代には、シナの「三朝の礼」に倣って、分娩当日の沐浴は簡単にして清拭に留め、二日または三日後に「初湯の儀」として丁寧な沐浴を行うことが多かった（梶完次「明治前日本産婦人科史」七八頁）。この風習は江戸時代以降になると変わり、分娩当日丁寧な沐浴をすることが多くなった。香月牛山は『小児必用養育草』で「今時の風俗により、生まれ下るとそのまま取りあげて洗いたるがよきなり」と述べている。

一、分娩当日

丹波康頼『医心方』永観二年（九八四）

紫式部『紫式部日記』寛弘五年（一〇〇八）の記録

梶原性全『万安方』正和四年（一三二五）

香月牛山『小児必用養育草』元禄一六年（一七〇三）

児島 恭『保産道志類辺』天明元年（一七八一）

賀川蘭齋『産科紀聞』文化一〇年（一八一三）

浅田宗伯『産科集成』明治三年（一八七〇）

稲坂三吉『産婆心得』明治二年（一八八八）

二、分娩翌日

『中右記』『源礼記』元永二年（一一一九）の記録

大牧周西『産科指南』文政九年（一八二六）

三、分娩後二日目を以降

伊勢貞陸『武家御産所日記』永享六年（一四三八）

岡 了允『育嬰窺斑』文政五年（一八二二）

水原三折『産育全書』嘉永三年（一八五〇）

沐浴の湯に混入するもの

児の無病息災や富貴を願って、沐浴の湯に魔除けの品や薬湯を入れる風習は『千金方』や『産経』が輸入された平安時代から行われ、江戸時代には民間にも普及していたらしい。香月牛山はこれを戒め、「常の湯」を用い「薬湯」をいれてはいけない、と述べている。幕末以降は石鹼を用

いている。

『医心方』……牛脂、虎頭骨、金銀、珍宝、珠玉。桃根・

李根・梅根の三物。猪胆（フタのキモ）一枚。

『康和元年御産部類記』（続群書類従巻第九九九雜部一四

九）……金銀、犀角、錢等。

『源礼記』……犀角、虎頭。

『万安方』……金虎頭、虎頭骨湯、小児五根湯（桃・柳・

棟・桑・槐の根）。

『玉葉』承元三年（一一〇九）の記録……虎頭、犀角。

『女重宝記大成』草田寸木子・元禄五年（一六九二）……

米^{しのみず}泔水、塩。

『産科紀聞』……米糠（二日目より）

『産科新編』蛭田東翁・文化一三年（一八一六）……酒、

塩。

『愛育茶談』桑田立斎・嘉永六年（一八五三）……石鹼。

『造化生々新論』古矢嘉満・明治一二年（一八七九）……

石鹼。

沐浴時の産婆の姿勢

『康和元年御産部類記』には「其（御湯船…筆者注）東

立床子為御浴人座」と記され、平安時代より沐浴する産婆役（御浴人）は床几に腰かけて産湯をしていたようである。腰掛けて沐浴する方法は明治になるまで続き、明治以降は産婆が盥の脇にしゃがんで沐浴する方法が一般的となった。沐浴の様子を絵にした文献を、産婆の姿勢で分類すると次のようになる。

一、産婆が盥の向う側の縁に足を掛け、自分の脚の間に児を乗せて沐浴する。

菱川師宣画『女諸礼集』万治三年（一六六〇）

草田寸木子『女重宝記大成』元禄五年（一六九二）

香月牛山『小児必用養育草』元禄一六年（一七〇三）

二、産婆の両脚を直接浴湯中に入れ、両脚の間に児を挟み片手を添えて支持する。

遊佐好生『孿生抄』元禄一五年（一七〇二）

西川祐信画『百人女郎品定』享保八年（一七二三）

西川祐信画『女中風俗十寸鏡』寛延元年（一七四八）

窪俊満『狂歌左軀絵』享和二年（一八〇二）

狩野晴川写『異本病草紙』（絵巻）文政四年（一八二一）

賀茂熊斎『安産幸運録』天保九年（一八三八）

一猛齋芳虎画『丙午歳子を生むの弁』（錦絵）弘化二年（一八四五）

牛田文郁『坐婆訓解』明治七年（一八七四）

歌重画『子の出来るはなし』（錦絵）明治一三年（一八八〇）

三、産婆が盥の側にしゃがんで沐浴する。

大蘇芳年画『郵便報知新聞第四四七号』（錦絵）明治初年

揚州周延画『雪月花房州小港の花』（錦絵）明治一八年（一八八五）

浅田宗伯編『小児寿草』明治二〇年（一八八七）

（順天堂大学医史学研究室）